



CQM(超短期経済予測モデル)

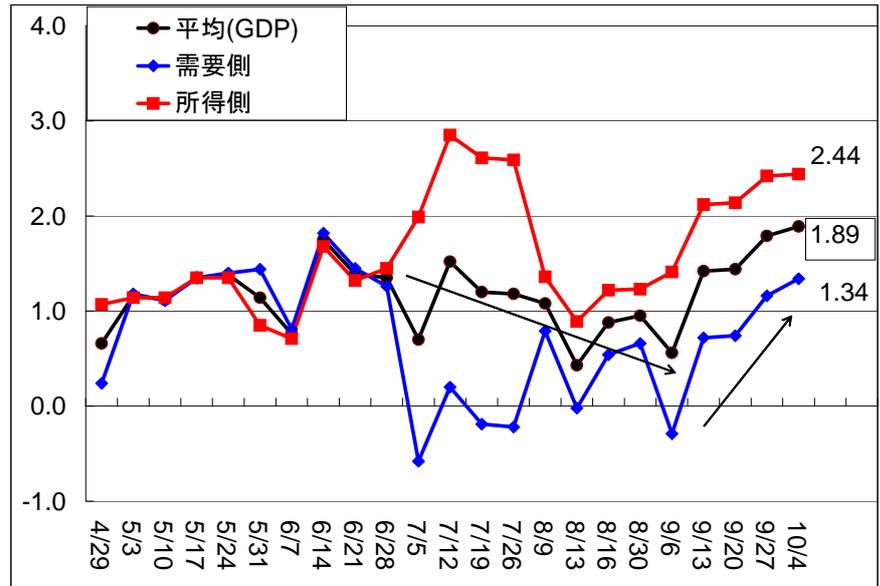
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2013年10月4日)

ポイント

- ▶今週の CQM は 8 月の製造業財出荷 (速報値)、自動車在庫、9 月の農産物価格のみを更新した。
- ▶政府閉鎖により、8 月の建設支出、製造業財出荷 (確報値)、9 月の雇用統計は公表されていない。
- ▶米景気のスローダウンは 9 月始めには終わり、その後堅調に拡大基調に転じている (図表 1)。
- ▶しかし、その経済成長のペースは今週でも 1%~2.5%と緩やかであり、連銀が QE3 の縮小を決定するには不十分である。
- ▶政府閉鎖、連邦政府の累積債務引き上げ問題などから、今後の米国経済への悪影響が懸念される。
- ▶QE3 の縮小延期を政府閉鎖などの問題と関連付けて、正当化するのは簡単であるが、真の問題は QE3 が経済に対して本当に効果的なのかを連銀エコノミストの間で、実証分析に基づき合意することである。

CQM 予測の動態：実質 GDP の成長率
2013年7-9月期 (%、前期比年率換算)



<政府閉鎖、政府累積債務上限引き上げ問題から、改善しつつある景気が腰折れする可能性が高い>

今週 (10/4) の CQM 予測は 8 月の製造業財出荷 (速報値)、自動車在庫、9 月の農産物価格のみを更新した。今週更新が予定されていた 8 月の建設支出、製造業財出荷 (確報値)、9 月の雇用統計は政府閉鎖により発表されなかった。今週の CQM 予測は 7-9 月期の実質 GDP 伸び率を支出サイドでは 1.16%から 1.34%へ、所得サイドでは 2.42%から 2.44%へそれぞれ上方に修正した。両サイドからの平均実質 GDP 伸び率は 1.79%から 1.89%へと 0.1%上方修正された (図表)。

図表に見るように、米景気のスローダウンは 9 月始めに終わり、その後拡大に転換している。しかし、経済スピードは遅く、今週の時点においても 1.0%~2.5%と 4-6 月期の経済成長率の 2.5%以下となっている。それ故、連銀にしてみれば、QE3 の縮小を決定するには及ばない。このように、緩やかだが堅調に米景気が回復し始めたにもかかわらず、新年度の予算協議の民主・共和両党の決裂から 10 月 1 日から政府閉鎖(shutdown)が生じてしまった。更に、悪いことには、10 月 17 日までに連邦政府の累積債務上限額の\$16.7 兆ドルを引き上げなければ、米国債のデフォルトが生じ、米経済そのものが shutdown になる。今の、両党の見解・戦略を考えると、政府閉鎖の問題は少なくとも 10 月 15、16 日までは解決しないだろう。今後、かなりの悪影響が経済に生じると思われる。

連銀エコノミストの中には、9 月の FOMC における資産購入の縮小決定の延期が正しかったと言うもの、あるいは資産購入の縮小決定が今後更に延期されるだろうと言うものもある。QE3 の縮小を政府閉鎖と関連付けてその延期を正当化するのは簡単である。しかし、QE3 の真の問題は今もって、その経済効果に対して連銀エコノミストの間で合意がとれていないことである。ダラス連銀の Richard Fisher 総裁は今でも、QE3 は経済に効果的に働いていないと言っている。今や、連銀のバランスシートは\$3.5 兆ドルを超えている。このような状況の中で、ダラス連銀の Richard Fisher 総裁が “When you are on the buy side things look great, but when you are on the sell side, when we get to that point, things look different” と言っているのは面白い。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690